巻末あいさつ

JAいわみざわ水稲直まき研究会
会長　濱　本　壮　男

JAいわみざわ水稲直まき研究会設立から10年以上が経過し、その間直まき10俵どり指南書も４巻目を発行する事ができました。

過去を振り返ってみると試行錯誤の連続でした。当初は良い肥料もなく肥料切れから収量が伸び悩み、除草剤も効かせるタイミングがわからず草だらけにしたこともありました。現在は良い肥料も開発され、除草剤のタイミングも的確になってきたと実感しております。

この直まき10俵どり指南書Vol.４を発行するにあたり、最も重要なポイントを紹介させていただくと20ｐ以降に書かれている10俵取るための生育目標です。北海道は生育期間が短く幼穂形成期までに必要な茎数を確保するための肥培管理をしなくてはいけません。幼穂形成期以降に出た茎は温度が足りなく登熟する事ができません。このポイントさえ理解できていれば、何時までに何をしなくてはいけないかが明確になるはずです。

研究会として、会員の皆様にこの指南書を十分に活用していただくために、巻頭に栽培ごよみを掲載させていただいております。このページを見れば、10俵取るための考え方、目標値の設定等が全て書かれております。また詳細の説明が書かれているページ数も掲載されていますのでご活用いただければと思います。

最後に、この直まき10俵どり指南書Vol.４は会員の皆様、各関連機関にご協力を頂きながら試験等を重ねてきた成果が実を結んだものです。この間の皆様の努力に敬意を表すとともに、今後も更なる収量向上、所得向上、労働生産性向上の実現のために研究会を運営してまいりますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

編集後記

JAいわみざわ水稲直まき研究会が設立され12年目となりました。この間に、空知・全道の直まき栽培面積はいずれも約２倍と拡大し、水稲面積を全て直まきに切り替える農業者も増えました。岩見沢の直まき栽培の技術レベルは格段に向上し、施肥体系や除草体系はより省力的に、コストを意識し選択肢も広がりました。

この地域に根付いているチャレンジし続ける農業者の精神が今の技術体系を作ってくれたと思います。

「直まき10俵どり指南書Vol. ４」は平成25年３月にVol. ３が発行されて以来、８年ぶりの更新となりました。平成25年に新人として岩見沢に赴任した当時、直まきの右も左も分からない私に、岩見沢の直まき栽培の魅力・技術・輪作の重要性・チャレンジする仕事の楽しさを教えてくれた、直まき生産者の皆さんにこの冊子を持って少しでも恩返しが出来たらなと言う思いで執筆者のみなさんの協力を得て作成しました。このような執筆の機会を頂けたことに感謝しています。是非活用して下さい。

10年後のいわみざわは、直まきが移植栽培の面積を超え、水稲栽培の主流になっているかも！？

直まき10俵どり指南書Vol. 4

令和3年12月　第1刷発行

発行　ＪＡいわみざわ地域農業振興センター

監修　ＪＡいわみざわ水稲直まき研究会
空知農業改良普及センター

執筆者

ＪＡいわみざわ　調査役　江戸知明
久米隆広

普及センター　専門普及指導員　竹本　愛（編集長）
普及指導員　図師拓也

元普及センター　齊藤義崇

アドバイザー

ＪＡいわみざわ水稲直まき研究会

会　長　濱本　壮男
副会長　金田　佳記
副会長　村木　　功

※執筆者の許可なく無断転載・複写・改変・再配布することを禁じます。

※この資料に掲載している農薬・肥料・技術は令和３年９月現在の時点で、登録実証されたものです。最新情報に注意して、ご活用ください。

印刷／空知印刷株式会社

太鼓判